

とり戻す

暮らせる郡山

社民党郡山総支部放射能対策委員会

委員長 ひだ 義 昭

2014年11月 23号

郡山市長者1-8-8 syamin@lili.ocn.ne.jp

☎922-8990 FAX922-9191

子育ての悩み、「放射能の影響」が6割！

「わが家」の計測結果は9割が年1ミリ超え、不安の現実を確認し改善求める

先の福島知事選でも、県民は具体的に汚染水や健康管理、除染に大きな関心を示しました。郡山市の「子供・子育てニーズ調査」では、子育ての悩みに63%の家庭が「放射能の影響」と答え、今後の課題に87%が放射能対策を上げています。

私たちは、5～7月に、第4次「わが家」「公園」の計測活動を行いました。その結果、市民の不安を裏付ける低線量被ばくの現実を確認しました。それと同時に、市の除染の徹底や問題点、とりわけ大人より放射線の影響を強く受ける子供たちの安全対策を急ぐ必要があります。

郡山市の除染目標

年間追加被ばく 1ミリシーベルト未満

- *屋外の空間線量…毎時 0.23 μ Sv 未満として、自然放射線 0.04 μ Sv を引く。
- *屋内線量…屋外線量の4割に低減するものと推測。屋内線量の計算は以下の通り
(0.23-0.04)×0.4=0.076(毎時)
- *年被ばく線量計算…屋外 (0.19×8時間)+
屋内(0.076×16時間)×365日

除染済のわが家も、9割が年1ミリ以上

市内18地域18戸の庭・屋外と居間・屋内の線量計測の結果、9割の「わが家」が年1ミリシーベルト以上で、平均は1.3ミリシーベルト、また、

除染済の家でも9割が年1ミリ以上の実態にあることがわかりました。

庭 0.23 以上が 6 割、居間は毎時 0.076 (市目標の 1 mSv) 以上が 9 割

18戸の内6割近くの家の庭が0.23以上で、除染が済んだ家の5割の庭が0.23以上でした。市の除染は全般的に線量低減に効果はありましたが、目標未達成の状況が多く残されています。

また、除染が済んだ家含めての約9割が、市が年間追加被ばく1ミリシーベルトとして「推測する屋内線量・毎時0.076」をオーバーしていることがわかりました。

全体	屋 外		屋 内	
	範 囲	0.13~0.55	0.012~0.18	
	平 均	0.27	0.11	
	毎時 0.23 以上	56%	毎時 0.076 以上	90%
除染済	毎時 0.23 以上	50%	毎時 0.076 以上	90%

*単位 μ Sv (マイクロシーベルト)

屋内線量も実測しないと除染を見逃すことに

市が屋内線量を推測する方法は、私たちの実測の結果からは現実を反映せず、正確でないということです。この方法では、屋内線量を実際より低く見て、

除染や余計な被ばく見逃してしまうことにつながります。

個人積算線量計測も実施：年平均 0.55 ミリ、自然放射線の 1.6 倍

21 名が計測をおこなった結果、平均が年 0.55 ミリシーベルト(自然放射線 0.35 ミリシーベルト除く)、そのうち 2 名が 1 ミリシーベルトを超えました。低線量でも長期化し、被ばく状況が蓄積することは避けなければなりませんし、大人の 3 倍以上放

射線の影響をうけるという子どもたちの被ばくには、さらに注意を払う必要があります。個人積算線量計測は、体による遮蔽が 3 割ほどあり、仕事場所など個人の生活パターンの違いで大きな差が出ることを前提に参考にしなければなりません。

私たちは郡山市に求めます！健康で安心できる暮らしを！

面的除染の徹底で年間 1 ミリ未満をめざすこと

- 1、年間 1 ミリ未満の被ばくに抑えるため、除染の終わっていない住宅、地域の除染を急ぐと同時に、除染が済んでも、毎時 0.23 マイクロ未満に下がらない場合は、原因を突き止め再除染を行うこと。正確な計測を行うためには屋内線量も実測が必要であり、住民の理解・協力を得ながら屋内実測を取り入れること。
- 2、宅地内の除染で出た汚染度の地上保管は、保管容器の遮蔽が不十分なため線量の高いところが数多い。住民の意見もききながら遮蔽強化策、保管袋の劣化対策を行うことを求める。

一日も早く仮置き場・中間貯蔵施設への搬出を！

児童・幼児・妊婦の被ばく低減対策を

1、年 1 カ月ほど保養に取り組むこと

低線量被ばくがつづく現状から、外部、内部被ばくの低減策として、放射線の極低いところを選び、食物はゼロベクレルに近いものを確保。体力・免疫力を高める運動・レクリエーション、授業もでき医療施設を備え、宿泊施設も整備。

宿泊費、利用料、交通費など無料、利用対象は小中学生、乳幼児、未就学児童、妊婦とする。

2、乳児・ベビースキャンの導入

現在、市が備えているホールボディカウンターは、大人用で検出限界値も子どもにとって高いうえ、乳児の計測はできない。乳児の内部被ばく検査として、検出限界値が 5 ベクレル/kg と精度も高く、1 歳未満の幼児も測れるベビースキャンの導入を求める。

『低線量の不安に苦しむ福島県民』を無視し、国は原発の再稼働と海外輸出！

政府は、放射能の影響に苦しむ福島県民を無視し、原発依存を続け、再稼働を急ぐ一方で、「100 ミリシーベルト以下は健康に影響がない」というような宣伝をしています。低線量の健康への影響については、放射線影響研究所が原爆被爆者の寿命調査から、新たに「ゼロ線量が最良のしきい値」と報告していますし、オーストラリアでは CT 検査を受けた子供の追跡から低線量による健康への影響が問題となっています。

児童公園、遊歩道などまだまだ除染対象多く

放射能対策委員会は、原発事故後半年ごとに計測活動を続けています。事故から4年目を迎えた今年

の5～7月に市内の8公園（152箇所）で4回目の計測を実施しました。

◎ 8公園 152箇所の計測結果 ※地上50cmで計測

空間線量値（単位：μSv/h）	該当箇所数	割合（%）
～0.23 未満	8	6
0.23～0.59 *市の除染対象箇所	110	72
0.60～0.98 *放射線管理区域と同レベル箇所	28	18
0.99～ *市の除染優先対象箇所	6	4

□ 144箇所に対策が必要と判明

152箇所の計測の結果、空間線量が郡山市の除染の対象となる箇所が110箇所（全体の72%）、「放射線管理区域」と同じレベルの箇所が28箇所（18%）、市の除染優先対象となる箇所が6箇所（4%）あることが分かりました（左表参照）。中でも滑り台、児童公園、遊歩道、ベンチなど多くの子ども達、市民が利用する箇所と比較的線量の高いことが確認されました。

◎ 8公園の主な地点の線量比較（地上50cm、単位μSv/h）

公園名	測定場所	2012年9月	2014年5月
荒池公園	埋立地点	0.27	0.36
	西公園ベンチ	0.55	0.64
	東公園遊具	0.64	0.35
酒蓋公園	埋立地点	0.55	0.28
	子供公園遊具	0.77	0.69
	遊歩道脇	0.82	0.43
香久池公園	埋立地点	0.33	0.27
	木製ベンチ上	1.28	0.60
	滑り台着地点	4.04	0.26
麓山公園 21世紀公園	埋立地点	0.36	0.19
	麓山児童公園	0.73	0.39
	杜の花壇	1.41	0.60
開成山公園	児童公園	0.32	0.14
	幼児公園	0.48	0.21
	歩道脇ベンチ	0.29	0.64
五百淵公園	デッキベンチ	0.75	0.50
	滑り台着地点	0.58	0.38
	遊歩道一周	0.7～1.0	0.29～0.58
芳賀池公園	トイレ前	0.90	0.57
	滑り台	0.19	0.19
	池の脇	0.19	0.16
大槻公園	木製ベンチ	0.76	0.15
	鎌倉池周辺	0.55～0.99	0.20～0.33
	公園内遊具	0.77	0.13

□ 事前の説明もなく仮々置き場を設置

公園内に設置されている「仮々置き場」は、土砂等で遮蔽され線量は低く抑えられていました。「仮々置き場」を設置するに当たっては、事前に郡山市による周辺住民への説明会等もなく、何を埋め立てるのか、管理方法等の説明もないまま作業が進められました。周辺住民から「運び込まれた土砂が風で周辺の住宅に飛び散っている」「保管方法、計測方法等がずさん」「埋立箇所の上を覆っている土が風で土埃となって飛んでいる。子どもたちも大勢遊んでいるので、覆った土に芝生を張ってほしい、と要望したが市は『環境省の基準にないのでできない』と回答」等々という声が出されています。

□ 管理の徹底、情報公開を求めます

今回の計測で分かった線量の高い箇所については、早急に再除染、子ども達が利用する遊具、ベンチ等は新しいものと交換すること、線量の高い箇所については、利用者に対して注意を促す表示板の設置等が必要です。また、「仮々置き場」の設置に当たっては、事前に説明会を開催し住民の意見や要望を聞き、疑問に答えること、徹底した管理と情報の公開を郡山市に対して求めます。

200万県民を被ばくの恐怖にさらした福島原発事故！

『事故は国が責任もつ』で再稼働に走る川内原発！

福島事故から4年目、いまだ12万人が避難生活している中で鹿児島県の川内原発再稼働は始まろうとしています。「賛成23%、反対59%」（朝日7/28）の意思が示され、避難計画の明確な審査もないまま、安倍首相の「(避難計画)合理的と確認し、了承した」の一言で動きだしたのです。鹿児島県知事が同意表明、御嶽山大災害の体験から日本火山学

会から出された疑問にも答えないまま、「事故が起きた場合、国が責任を持って対処する」（宮沢経産相）として国は再稼働へ舵を切らせました。

被ばく体験の福島県民として、再稼働「是非」の論議に留めてはなりません。健康も賠償も認めない国や東電、その国が責任を持つといっても信頼する県民は少ないことを、事実から明らかにしましょう。

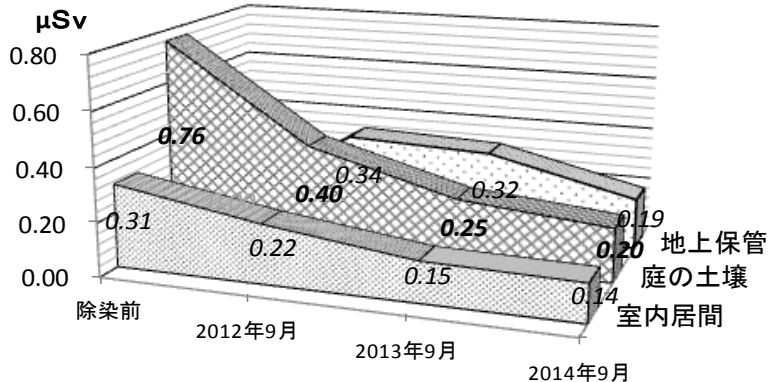
勝手にやった学校の除染は中間貯蔵施設に入れさせない…環境省見解

安倍首相の「福島の復興なくして復興なし」はウソですか！

子どもたちの安全確保を急いだ行政は、学校等の土壌を削り苦心しながら「校庭」などに穴を掘り埋めました。郡山市は、かおる小学校を先頭に次々と実施。平成27年度開始予定の『中間貯蔵施設』（双葉郡進行中）に国が責任もって搬入することで全県的に進められましたが、その搬入を環境省が認めないと言い出したのです。理由は、汚染物質対処の法律（2012年1月）ができる前に『勝手にやったものは搬入させない』との見解を出してきました。

郡山市に「土埃舞わないように汚染土埋めた場所に芝生を植えてほしい」と要望したら、「環境省は現状に戻す以外ダメなのでできない」と回答しました。これが『事故に責任を持つ』（宮沢経産相）という国の姿勢であり、原発を推進した国の無責任さを県民の意志として問わなければなりません。

池ノ台K宅モデル除染100cm線量



【自主的除染等行った方へお知らせ】

「除染費用」の賠償受付開始！

石原前環境相の「個人の除染は出さない」で混乱したが、具体化されました。

- 対象 ■事故～24年9月までの費用
- 内容 ■外部委託費用、物品購入費など
- 案内 ■原子力補償相談室

0120-926-404

なお、領収書等準備しご相談ください。

「河川や湖沼の除染はしない」環境省—日本有数の鯉出荷の郡山市どうするのか

市内のため池は「鯉の養魚場」などにも利用され、除染は大きな問題です。ところが国は「水には放射線を遮る効果」で除染しないと決定。

2012年、香久池の泥を検査した結果、『33700ベクレル/kg』（NPO依頼調査）ありました。水の遮蔽効果はありますが、大雨などで「濁り水」が流れ出す問題。水田の土壌調査では、一番高い層は濁り水の部分と出ています。この水が、最終的に阿武隈川を經由し海に入ります。

「阿武隈川のコイの出荷制限は下流」「今回は白河市をはじめ県内の同川全域で制限」（民報9/17）を環境省は知っていながら、除染しないのは大きな問題です。